



Flyin' to the Sky

京都府立大学 国際センター ニュースレター

March 2020 Vol.14

目次

1. 西安建築科技大学と国際交流協定を締結しました
2. 雲南農業大学からの訪問団が来学されました
3. 西安外国語大学からの交換教員としての1年を振り返って
4. 豪 マッコリー大学の担当者が来学されました
5. 2019 留学生との交流ツアーが開催されました
6. 京都府立大学での留学は一生の思い出（バングラデシュからの国費留学生の体験談）

西安建築科技大学と国際交流協定を締結しました

文学部歴史学科 共同研究員 奥谷 三穂



調印式後の記念撮影。右から西安建築科技大学・王莎講師、芸術学院蔣宝钢院長、京都府立大学・奥谷共同研究員、宮津市河森学芸員、西安建築科技大学大学院事務局長王小丁寧主任



漢中市寧強県青木川村での合同調査の様子

2019年8月23日、中国陝西省西安市にある陝西省立の西安建築科技大学において、京都府立大学文学部と西安建築科技大学芸術学院による学術交流覚書を締結しました。この協定は、日中双方の研究者の交流により、中国における伝統村落の保存継承の現状と課題を調査し、日本の文化的景観の保存継承における手法や考え方との比較を行うことで、新たな学術的成果を得ることを目的としたものです。本調査研究では、2021年6月までの2年間、陝西省内の中国伝統村落の建築及び農村景観の調査を実施し研究会を開催する予定です。2019年8月の調査では、一般財団法人橋本循記念会の研究助成費により陝西省渭南市閩中地区韓城市党家村及び漢中市寧強県青木川村の伝統建築群の調査を行いました。本学からは生命環境科学研究科 大場修教授と私が、また、龍谷大学政策学部 北川秀樹教授、宮津市教育委員会の河森一浩学芸員が参加しました。

今後は、本学の大学院修了後、中国国内で伝統村落の調査研究と保存活動を行っている中国研究者を交え、西安建築科技大学において研究会を開催する予定です。さらに将来にわたり日中相互間の文化・学術交流が広がり、国際的理解が深まることを期待しています。

雲南農業大学からの訪問団が来学されました

生命環境科学研究科 農学生命科学科 准教授
中村 貴子



2019年12月13日(金)から12月17日(火)まで雲南農業大学から張立敏(ZHANG Limin)先生、郭睿南(GUO Ruinan)先生、吳頌群(WU Songqun)先生の3名の先生方とともに10名の学生さんが京都へ来訪されました。京都府立大学と雲南農業大学とは国際交流協定を結んでおり、京都府立大学の学生が雲南農業大学の授業を受けることができ、また、雲南農業大学の学生が京都府立大学で授業を受けることもできます。京都府立大学の教員と学生は毎年9月頃に技術中国語演習で雲南農業大学へ行きます。今回来られた学生さん達は、私達が9月に訪問した際に交代で色々とお世話をしてくれた方々でしたので、全員顔見知りの間柄で更に交流を深めることができました。

日本への到着が午後7時頃でしたので、京都への到着は午後9時を過ぎました。翌日は午前9時から京都府立大学で、井上亮先生の「日本の養豚研究の現状－腸内細菌叢研究は養豚に役立つか－」、続いて寺林敏先生の「養液栽培と植物工場」についての講義を受けました。その後、当日開催されていた京都料理組合主催の京料理展示大会を訪れ、京都や和食をキーワードに京料理を学びました。翌日は、京都府立大学からも教員と学生合計約8名が参加して奈良公園まで行き、奈良の歴史を探訪しました。夜は観光ということで、大阪の難波の方まで行きました。中国の学生さんの中には日本のアニメが好きなお方もおり、アニメ関連の店に立ち寄りたり、たこ焼きを食べたりと日本の現代的な文化体験もすることができました。16日(月)には、「日本緑茶発祥の地」である京都府の宇治田原町において、日本緑茶の概要と生産工程等を学習するとともに、体験や観光を通じて日本緑茶の歴史や文化を体感する機会にめぐまれました。茶園を見学したり、この時期にしか見られない古老柿作りの見学をしたりしました。また、永谷宗円生家では緑茶体験を行い、煎茶の歴史の話を聞くことができました。昼食には「宗円交遊庵やんたん」という施設で茶汁セットをいただき、その後、抹茶の臼挽体験をしながら地域おこし協力隊の方から宇治田原町についての説明を聞きました。雲南農業大学の学生さん達は、熱心に話に耳をかたむけていました。午後には、ある企業のポスターにも使用された正寿院というお寺で講和を聞き、寺院見学をしました。

その日の夜には京都府立大学で歓迎会を行い、築山学長をはじめ、塚本生命環境科学研究科長、寺林敏先生、久保康之先生、増村威宏先生、池田武文先生、中村考志先生にもご出席頂き、学生も合わせて総勢26名と賑やかな会になりました。学生同士は、中国版のSNSで繋がっているようで、その後も交流していることでしょう。これまでも雲南農業大学から多くの留学生を迎えました。博士号を取得した学生も数名います。今年も1名が取得予定です。日本からも雲南農業大学へ留学する学生が出てくれればさらに交流の意義が深まると思います。今後も互いに訪問し、両大学の良好な関係が続くことを祈念いたします。

西安外国語大学からの交換教員としての1年を振り返って

西安外国語大学 日本文化経済学院 南海



2019年4月から11年ぶりに再び京都府立大学で1年間勤務することになりました。このたびの京都での生活は京都府立大学の教職員の方々のおかげでとても充実したものになり、誠に快適でした。前期の5月の新入生との合宿旅行、7月の4回生や院生たちとの講座旅行はいずれも昨日のこのように記憶に残っています。

前期の4月の桜が満開の季節に来日し、嵐山などいわゆる桜の名所をたっぷり満喫させていただき、後期は林先生に教えていただいた、紅葉の名所として知られている東福寺で存分に楽しみました。これほどすばらしい、四季折々の京都で合計2年間も滞在することは、私の人生において、かつては一度も考えたことのない非常に贅沢なことで、とても満足しました。

1年間、中国語の講義を担当しましたが、中国語を履修する日本人学生の数が11年前と比べるとこれほど増えたのかとびっくりし、いかに中国と日本との交流が盛んで、深化していることを物語っているのかと改めて深く認識しました。中日が緊密に連携、融合している中、日本人学生の中国語学習の情熱も一段と高まってきたのは何よりのことです。今後の中国語教育も「任重而道遠(長く険しい道のり)」で、かつて唐の李白の五言絶句に詠まれていたあの「更上一层楼」、即ち更なるワンステップが問われているように感じています。一年間大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました！



豪 マッコリー大学の担当者が来学されました



文学部欧米言語文化学科では、国際京都学プログラムの一環として「世界遺産都市研修Ⅰ」を実施しています。参加者は、2月中旬から3月中旬の1か月間、オーストラリアのシドニーにあるマッコリー大学で少人数の英語集中講座を受講します。また渡豪前のフィールドワークを生かして、現地学生に向けて京都文化に関するプレゼンテーションも行います。

例年、現地大学の担当者が春と秋に来学し、本学科の担当教員と運営協議を行っています。今年度は5月に

文学部 欧米言語文化学科 准教授 細越響子

Macquarie International の Hope Tancinco さんと Jennifer Han さんが来学し、研修日程や講義聴講、ホームステイなどの詳細を確認しました。当初、現地の学年暦に応じて例年より1週遅い日程が示されましたが、本学と国際交流協定を結んでいることから、特別に調整を図っていただき例年通りの日程で実施できる運びとなりました。

11月にはまた Jennifer さんが来学し、2月のオンライン事前研修の要領を確認しました。現地大学とネットをつないで出発前のオリエンテーションを行うという、今年度からの試みです。折しもオーストラリアの森林火災について参加予定者から心配の声があったこともあり、現地大学の担当者と連携しながら「顔の見える」研修運営ができることを嬉しく思います。今年度は14名の学生が渡豪しました。

2019 留学生との交流ツアーが開催されました

留学生の皆さんに日本人学生と交流しながら京都の文化にふれることを通じて、日本で暮らした慣れをもらうことを願い、国際センター及び京都府立大学後援会では国際交流事業を実施しています。

2019年11月14日(木)午後1時から、「2019 留学生との交流ツアー」が開催され、留学生 12 名、日本人学生 18 名、職員を含む 35 名が参加しました。京都府立大学のバスに乗り、京菓子資料館を訪れ展示や糖芸菓子を見た後、お茶席を体験しました。

その後、京都迎賓館を訪れ、日本の伝統技能の粋を集めた建物の中で、素晴らしい工芸品の数々等を見学し、最後に学生数名ごとのチームに分かれて交流ツ

アー全体の印象をキャッチフレーズにまとめました。優秀賞キャッチフレーズを考えたチームには京都府の記念品が贈られました。

優秀賞キャッチフレーズ

「桜庭の 水面に生える 金の鯉 五感で味わう 職人の業」



(国際センター事務局記)

京都府立大学での留学は一生の思い出

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 修士課程修了 Hosne Ara Dilzahan (バングラデシュからの国費留学生)



日本は絵画のように美しい国です。すべてが花瓶に生けられた花のようです。また、日本人は親切で礼儀正しいと思います。私の子どもの頃の夢は海外で専門教育を受けることだったのですが、安心して勉強ができる日本を留学先に選びました。日本に約2年半滞在しましたが、一人でも特に不自由はありませんでした。単身用マンションに住んでいたのですが、とても綺麗なお部屋でした。また、あちこちにコンビニがあって買物もとても便利でした。私はイスラム教信者なのでハラミート(イスラム法において合法的に処理された肉)を買う必要があったのですが、日本はイスラム教の国ではないのに、ハラミートを売っているお店を見つけて驚きました。日本食も美味しく健康的だと思います。今回の留学は私にとって初めての海外生活でしたが快適に過ごすことができました。

京都は寺社の多い歴史ある街です。何百年も前に建てられた世界遺産を目のあたりにして感銘を受けました。私はその京都にある大学で学ぶことができ、とても恵まれていたと思います。先生方や学生の皆さんは親切で、カリキュラムも実践的に組まれており、研究課題に必要な知識を得ることができました。研究室の機材や薬品なども充実しており、研究に適していると思います。私はまた安全という点でも京都府立大学はトップクラスだと感じています。夜遅くまで研究室に残っていたこともありますが、何も問題ありませんでした。

先生方、学生の皆さん、職員の方々は勤勉で時間をきちんと守ります。私は、以前は時間にルーズでしたが、日本に来て時間を守るということを学びました。これは私の将来にとっても、役立つことだと思います。京都府立大学主催の交流ツアーや新春交流会にも参加して日本文化を学びました。このニュースレターが発行される頃、私は日本を遠く離れているかもしれませんが、京都府立大学にまた戻って来たいと思っています。私は日本で過ごした日々を決して忘れません。

発行日 2020年3月

発行責任者 国際センター長 川瀬光義

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

TEL: 075-703-5905 Email: kokusai@kpu.ac.jp